

### 第3回 府立北桑田高等学校の在り方検討会議（概要）

- 1 日 時 平成29年7月6日（木）午前10時00分～正午
- 2 場 所 京都市京北合同庁舎 大会議室
- 3 出席者 23名  
府教育委員会 前川教育監、井上高校教育課長、  
相馬高校改革担当課長 ほか
- 4 概 要  
(1) あいさつ  
(2) 説 明  
(3) 意見交換（主な意見）

#### ■説 明

□府教育委員会：資料説明

□北桑田高校校長：資料説明

資料は本校が中心だが、美山分校については後ほど考えを述べたい。在り方検討会議のこれまでの議論を踏まえつつ、教職員から意見を聞き、地域の方々のお話も伺う中で、私なりの活性化案を考えさせていただいた。まず、すぐ進めていきたい改革と、地域と共に発展を目指す中長期的な改革とを考えている。現在の学科は、既に全国に誇る特色があると思っており、基本的に現在の森林リサーチ科、普通科の2学科を継続させる方向で考えている。各学科のコースについては、特にカリキュラム等で明確化し一層特色を出していくことが大切と感じている。

森林リサーチ科について、コース内容を明確にしつつ最新の研究や取組を取り入れて、国公立大学等へも進学できる森林探究コース（仮称）、それから育林や木工等実習を重視した森林資源活用コース（仮称）、この2コースを設定したいと思っている。

普通科については、これまでからある国公立・難関私立大学への進学や国際教育等を重視した文理探究コースと、地域や自然をキャンパスとする教育資源を活かした人間力を高めて個々のニーズに応じた進路実現を目指すキャリアデザインコースを設定し、この地域の特色を活かした学科にしていきたいと考えている。

また、両科共通の新たな取組として、交通アクセスが悪い本校の事情を鑑み、他の府立高校でも取り組んでいる校内や家庭で活用可能な学習支援システムの導入と、塾や予備校に行きたくても行けない生徒に対して、これまでの補習に加え、塾や予備校のサテライト校として、授業が本校で受けられるシステムを検討している。できれば今年からでも取り組みたい。塾や予備校に行かなくても個々の時間、進路に応じた効果的な学習支援をしていきたい。

次に入試制度について、普通科は現在、前期選抜で口丹以北の地域から定員の20%まで受入可能となっているが、これに加え、本校が京都市に立地していることも踏まえ、京都市・乙訓通学圏からも前期選抜で10～20%受入可能な制度にできないかと思っている。今までは京都市・乙訓通学圏から本校普通科の受検はできなかったが、1つ選択肢として増やすことで京北地域以外の京都市の方々にも本校の存在をPRできる機会になるのではと考える。これも次年度の入試に向けて現在検討中である。森林リサーチ科については、寮の整備や、実習等の特色化を進めながら、現在府内全域から来てもらっているが、全国募集ということも視野に入れて、取り組んでいきたい。

次に学習環境、施設整備についてだが、やはり通学のための公共交通機関の便が少ない、運賃が高いという実情がある。その整備、又は補助については検討いただければと感じている。様々な実習を含め移動することも多く、バス停まで行く手段がない生徒もいるため、スクールバスの導入も検討できないかと思っている。寮の

整備はこれまでも議論されてきたが、現在ある寮の収容人数が限界であることから、今後、女子寮をつくるとか地元小学校の跡地を活用させていただけないかなど、中長期的に考えていきたいと思っている。一方、北桑田高校に行きたいが寮に入れないのか、という問い合わせも多数あるため、地域に生徒の下宿受入等お願いし、現在呼びかけのご協力をいただいているところである。これはすぐにでも実現できればと思っている。

また、新たな取組としてクライミング施設の整備がある。ボルダリングという競技があるが、屋内施設を整備し、生徒だけではなく地域や一般の方にも利用いただけるような形ができないかと考えている。また、木工・工芸品等については、多方面から多くの注文をいただくのが現状であり、対応できる施設整備も中長期的には考えなくてはいけないと思っている。

次に特色ある授業についてであるが、今も地域との連携で様々な活動をしているが、将来、地元を支える人材を育成していくことも本校の大切な役割であり、それを踏まえて小中高連携をより進め、国際教育分野で協力していけないか、また、地域等の団体、京都大学、京都府立大学、林業大学校、植物園等々との連携も図りながら森林リサーチ科で特色ある研究ができないかと考えている。

また、この地域は田畑の鳥獣被害が年々増えているため、地元の高校として18歳以上から免許取得可能であるわな猟について、3年生の希望者に対し今年度から取り組めないかと考えているところである。それから地域資源の活用として、自然観察、林業・農業体験、アウトドアライフ体験、環境問題への取組、ツーリズム、乗馬、釣りなど体験も可能な限りさせていきたいと思っている。これらは京都市中心部の高校ではできない取組だと考えている。その他、森林リサーチ科の木工を普通科でも体験できる仕組みなどを作りたいと思っている。

特色ある部活動について、全国大会で三度の総合優勝を誇り、今年度も近畿大会総合優勝を果たした自転車競技部をはじめ、伝統ある硬式野球部、陸上部、吹奏楽部などをより活発にしていきたいと考えている。それから山岳（ワンダーフォーゲル）部も伝統ある部活動であるし、クライミングにも取り組んでいきたい。また、京北の宇津を拠点とする全国のジュニアチャンピオンを輩出するトライアスロンチームがあり、せっかく地元を拠点に活動されているので高校が何らかの形で協力したり、あるいは選手に本校に来てもらえないかと協議しているところである。乗馬については高宮ライディングパークが近くにあり、連携した活動ができないかと思っている。学校の特色を活かす部活動としては、木工クラブや、地域ガイドをする部活動、それから安全に出来る射撃としてビームライフル射撃が国体競技にあるので部活動でできないか検討しているところである。

美山分校についてだが、現在は、生徒数の減少もあるが地元地域の農業や暮らしと結びついた、働きながら学ぶという本来の役割と少し異なってきたことは事実と感じている。一方で分校が取り組んできたじっくり働きながら学ぶという一人一人と向き合った丁寧な教育を求める生徒が、毎年いることも事実である。分校の生徒は非常に良い表情で進級・卒業しており、こうした役割を担う学校は必ず必要だと感じている。美山分校が引き続きその役割を担うのか、教育内容を精選していく中でよりアクセスの良い場所にある方がよいのか議論が必要と感じている。ただ、このことは、分校の存続の話と並行して、口丹地域全体の課題として考えられる必要があると思っている。

## ■意見交換（主な意見） ○：出席者 ◆：府教委 ◇：進行

- ◇ 北桑田高校の今後の在り方について、今回は学校長から現状のまま高校を存続させ、今後も発展させていくため必要と思う案を示していただいた。地元地域で設置されている会合でも既に紹介されていると聞いている。この案に対して、様々な観点からご意見をいただき、今後教育委員会として在り方に関する方向性を見いだしていきたい。

- 3月末に京北・美山の住民組織で会をもち、北桑田高校存続協議会という会議を発足させた。存続協議会ではメンバーから魅力ある北桑田高校とするための様々な意見が出たが、北桑田高校が目指される魅力ある構想を地元が支援するということが基本的な考えとして検討を進めていくことになった。

6月に学校長と存続協議会で懇談し、さきほど校長先生から説明のあった北桑田高校活性化構想案を聞かせていただいている。一同、心より賛同し北桑田高校に明るい希望が持てたと思っている。構想の実現を積極的に支援することもその場で確認をさせていただいた。その後、協議会を開催して地元としてできる支援策を検討している。

まず、クラウドシステムを使った学習支援や予備校のサテライト校の導入などによる学習支援の財政的支援を行う。また、広域から生徒を受け入れるための支援ということで京都市、乙訓通学圏からの生徒の入学に対し、短期的には地元で下宿による受け入れ、将来的には寮の拡充を見据えて支援も行っていく。また、学習、部活動を学校で行うと帰りが夜遅くなるため、バスのダイヤ改正も必要になる。その辺りの行政への働きかけも支援していきたい。あと、遠方から通う生徒の通学費の支援も考えていきたいと話している。すでに北桑田高校には、京北・美山地域の住民の皆さんから毎年後援会費をいただいているが、支援していく上で増額が必要になるため、後援会とも相談しながら支援強化を検討していきたい。また、バスのダイヤ改正や寮の拡充等、行政の支援がなければ実現しない課題もたくさんある。これらも積極的に支援をしていきたいと思っているところである。以上が存続協議会でこれまで検討してきた概略である。
- 美山にしても京北にしても、北桑田高校は地域にとって大切であり、無くなるということは地域の衰退につながるという思いを持って、両町の自治会代表や各地域の住民代表等でこれまで話し合ってきた。現在、それぞれの地域で定住促進プロジェクト等を進めているが、地元には高校がないとなると非常に大きな痛手を受けるため、なんとか存続してほしい。また、単に存続を求めだけでなく、地域で高校を支援できることは何かを考えようと、校長先生の構想を聞いて物心両面で支援していこうとなったところである。

もともと北桑田高等学校は昭和19年に北桑田農林学校開校時に財源を半分は地元が出資している。土地についても、相当な畑、山林を地域住民が提供してできた学校である。その先人の思いも我々が引き継ぎ、地域があってこそその高校、高校があってこそその地域という関係をさらに築く必要があるとの思いで進めている。地域と行政とで協働しながら、小規模でも光る学校を地域とともにつくっていこうと協議を進めているのが現状である。
- 校長先生の構想が大変情熱ある提案で感激している。歴代の同窓会長から聞いたところによると、高校の支援として生徒の海外留学について同窓会から支援しようとの発案があったとのことである。これは大きな目玉になると思う。校長先生から詳しく内容を聞かせてもらえれば皆の参考になるのではないかな。
- 紹介のあった海外留学に対する支援であるが、今年も1名の海外留学希望生徒がいるが、後援会のご協力を得て、全額ではないが今年度から一部費用の支援という形で実施させていただく予定である。後援会予算も限りはあるが、今後も可能な限り補助をしていきたいと思っている。学校、生徒ともに非常に感謝しているところである。
- これまでの会議で地元の意見は大半出尽くしたと思う。高校を残してくれという意見が大半であり、あとはいかに残すかであると思う。まず京北・美山の中学生が他地域の高校へ行っているという状況がある。やはり魅力ある高校にシなくてはならないというのが共通認識である。これについては学校、あるいは府教委で十分検

討いただかなくてはならないが、これをどう手助けしていくかという、私は財政支援だと思う。後援会、同窓会、育友会等がしっかり手を組み、存続協議会も一緒になって、元気にしていく取組を進めなくてはならないと思う。高校OBは7千～8千人程度いてそれぞれ全国で活躍されていると思うので、同窓会、後援会として全同窓生に呼びかけて、現状を打破できる支援金活動を充実させていかなくてはならないと思っている。

定員割れの状況もあり他地域の生徒を呼び込むことは必要であるが、地域への定住を促進して、その家庭の子どもに北桑田高校に通ってもらえるようになることが最も大事な目標である。とりあえず、当面は様々な取組を進めることとし、地元でやれること、行政に要望することを分けて具体的な動きに移らなくてはいけない。

○ 地域の活性化と移住・定住を促進していくことが大きな課題だと認識している。人が増えればバスも走るだろうし、それにつながるものとして北桑田高校の存続と魅力化が非常に重要になってくると思う。目指す過疎地域の活性化につながるものとして、学校、府だけではなく地域も巻き込みながら京都市としてもバックアップしていきたい。

○ 府・市には様々お願いしていくことがあるが、我々地元としてもやらねばならない、頑張っていきたいと考えていることが数点ある。

まず、JRバス路線を延長し、太秦天神川～北桑田高校前までの路線にしてほしいと約3年前から京都市を通じてJR西日本に要望している。また、運賃についても、京都駅から京北まで運賃は一般1,180円だが、500円程度にしてほしいと要望しており、実現すれば通学定期代が安くなり、さらに高校の前までバスで通えることになり、京都市中心部から多くの生徒に来てもらえるのではないかと。

また、京北自治振興会から下宿登録家庭募集のパンフレットを出して、高校に自転車などで通える範囲の地域の方々に協力を呼びかけている。ただし、個々に5～6名の下宿生を受け入れる場合、寮と同じ安価な金額では厳しいこともあり、行政からある程度援助をいただきたいという思いがある。また、寮については平成32年4月からの京北の小中一貫校と併せて、京北第三小学校を活用した寮の拡大も考えていきたい。また、予備校の支援という話もあったが、ふるさとバスを増発して予備校の終わる時間に保護者の送迎ではなくバスを利用してもらえよう、ダイヤ改正、料金変更等も含めて取り組んでいきたいと思っている。地元としても、一所懸命に汗をかいていくので、高校の存続をお願いしたい。

○ 美山中の場合、生徒は高校の特色や部活動、利便性を含めて進路を考えているという状況である。学校としては、どの高校へ進んでも頑張っていける力を身につかせて卒業させているつもりである。今年の選抜では北桑田高校普通科11名、森林リサーチ1名、分校1名という状況ではあるが、基本的に生徒の多くは公立志望でほとんどが公立高校に進学している状況である。他の学校を積極的に進めていることはなく、色々な条件面も含めて、できるだけ公立高校への進路を考えていくことを基本に指導しているところである。

今年度は6月中旬に進路説明会において高校の活性化案を説明していただいた。生徒にとっては大変魅力的な学習条件であったと思っており、感想を2つほど紹介させていただく。「通学のことと考えて第1希望は北桑田高校に決めている。高校の先生が一人一人の実力を伸ばせると話をされており、勉強がさらに深められそうだったと思った。少人数で小規模だけれども自然の中で学べる環境について、何千人も生徒がいる高校にいた先生が評価されていたので、違う環境にいた人に良い学校だと言われると、地元の良いところがさらに分かる気がした。」「近くの高校である北桑田高校だが、詳しく話を聞いたのは初めてで、小さな学校だからこそできることが本当にたくさんあるのだと分かった。コースもたくさんあり、一人一人に対応しているということがすごく分かったし、少人数の良いところだと思った。地域との

関係を大切にしていける授業もあるとのことだったので魅力がたくさんあると思った。」生徒はこのように思っているし、現状では昨年度よりも北桑田高校への希望も多いので、ぜひ提案されている構想については実現していただけると嬉しい。

- 周山中においても、ほとんどの生徒が北桑田高校にお世話になっているが、その一方、一定数が京都市内の私学や公立高校のその他専門学科に進んでいる。このことは、子どもの多様な進路を保障していくという高校制度の趣旨から考えれば、ある意味仕方ない部分でもある。様々な進路選択をする中で、市内中心部の専門学科に流れるのは止められないとは思いますが、その状況の中、北桑田高校の存続に向けて何ができるのかを考えたとき、まず中学校としては、北桑田高校の教育内容や構想を、中学校の教員が自分の言葉で生徒に伝えるという点があると思う。毎年、高校に説明をしていただくが、とりわけ中学校3年生の担任がきちんと中身を理解していけるよう、学校の取組として進めていく必要があると考えている。

その他、校長先生が示されている活性化構想に対して思うところは3点ほどある。1点目は、京都市内の専門学科、例えば、エンタープライジング科、人間探究科、京都こすもす科など大学進学で特色がある学科が多い。つまり、周山中で成績が優秀な生徒はそちらに進学している状況がある。そうした生徒のニーズに応えるには、進学をどう保障していくかであり、その意味で、提案されている予備校のサテライトについては大いに期待したいと思う。

2点目は、京都市内中心部からの10~20%の受検枠について、これは実現に向けては選抜制度も少し変える必要があると思うが、今後、北桑田高校の生徒数を考えると、京都市内からの志望者増に活路を見いだすことが絶対必要だと思う。また、中学生の話を見ると、北桑田高校に行っても、半数ほどは同じ中学校の生徒ばかりだと言っている。やはり、美山中のほか様々な中学校の生徒がいたり、様々な部活動があることが1つの魅力あるキャンパスライフになるのだと思う。京都市中心部から生徒を集め、戦略的にうまく活用して多様な人材、部活動等で有力な選手などを獲得できれば、高校の新しい魅力にもなるし、先ほど申し上げた相乗効果として、生徒の選択肢に北桑田高校が出てくるようになるので、この取組についても支持をしたいと思う。

3点目は、現在、平成32年度に開校する小中一貫教育校の取組が進められているが、施設だけでなく教育内容に関しても全国に誇れるものにしていきたいと考えており、この小中一貫校と北桑田高校がしっかりと接続していける教育内容を今後一緒に考えていきたいと考えている。

- 生徒数が減少する傾向について、地元の小、中学校の子どもが減れば北桑田高校が減るのは当たり前のことである。そのため、これまでの意見にあるように増やす努力をしていかななくてはいけない。まず、提案のあったように京都市他地域からの生徒をどれだけ集めてくれるか、それと併せて、他地域から来て住むことができるような寮などの設置が必要になる。

今年に入り、地域に知ってもらおう努力を高校は色々されていると思う。毎年行われている演奏会への北桑田高校の参加や文化祭の大々的な案内のほか、マスコットのネーミング募集も中学校だけでなく小学校にも話をいただいて、少しでも関わりを持とうとする努力をされていることは大変よく分かるし、提案された構想についても本当によく考えておられると思っている。

その上で取り組んでいくこととして、選抜制度のことや寮の整備があると思う。それから、難しいかもしれないがバイク通学はやはりできないだろうか。安全のためにほとんどの高校が3ない運動をされて、現在は許可されていないのだと思うが、通学手段として考えてみるのも一つだと思う。また、例えば、嵯峨野高校や北嵯峨高校、南丹高校等の夏休みの補習を北桑田高校で実施して関わりを持たせつつ、北桑田高校の生徒が予備校などの受験に関する刺激が少ない部分を補える、揉まれる取組を考えることも大事ではないかとも思う。

高校の制度については全てわかっていないところもあるが、北桑田高校の存続については地域をあげて大事にすべきということはよく分かる。そのために話し合うことは大事だと思うが、その後に取り組むことを増やしていき、前に進んでいくことがより大切だと思う。

- 活性化案にある京都市・乙訓通学圏からの10~20%の募集枠拡大については、上限が20%との理解で良いのか。それから、いつから開始するかであるが、特に次の入学者選抜に適用できるかなどの見通しはどうか。
- ◆ まず、10~20%についてだが、口丹通学圏の場合は普通科の学区が設けられており、学区外から来られる生徒の数は定員の20%までという制限がある。また、京都市・乙訓通学圏では、前期選抜で募集人員が総定員の30%で、隣接する地域においても同様であるため、北桑田高校の場合には口丹以北からの20%、京都市乙訓通学圏から例えば10%ということになれば、京都市・乙訓通学圏の学校と同じ%になることを踏まえて提案いただいているのではないか。この提案を受け、府教育委員会としてもできるだけ早い時期から実現できるようにとは考えている。ただし、京都市教委や京都市・乙訓地域、口丹地域の高校に十分理解いただいた上でのこととなる。
- 口丹以北から20%取った場合には京都市からは10%となると思うが、逆の方が実効性があるのではないか。技術的なこともあると思うが検討いただきたい。もう一つ、校長先生の案では2学科3学級制、1学級30人の定員90人となっている。これが維持できれば良いが、困難な場合に1学級30人ではなく20人という例外的な扱いはできるのか。
- ◆ 高校の教員の配置は1学級40人ベースと国の基準で決まっており、北桑田高校の30人もかなり柔軟に対応し、府全体の中で努力して実現しているところである。20人とするについては、例えば、専門学科では農業科20人、家政科20人という募集もある。ただ、学科として30人程度はいたほうが活動ができることも多くなり望ましいと思う。実際には今年の生徒も定員を割っているが、学校存続のためには一学年90人規模くらいは努力をしていく必要があるのではないかと考えているし、そういう思いで校長先生も資料に人数を記載されているものと考えている。
- 京都府全体の検討会議でも最低3学級、できれば5学級程度あるほうが良いとされている。その点から見れば、20人とする、90人定員からかなり減るわけで、その場合に一個の独立した高校としては府教委としては認められないとなる。北桑田高校が今やろうとしていることは実験的なプロジェクトだと思う。うまくいくとは限らないが、思い切って普通科で1学級20名編成として徹底した少人数教育をやってみるなど例外的な措置が考えられたらと思う。
- ◆ 明確な答えとしては申し上げられないが、高校を選ぶ際には、部活動等をやりたいという生徒もいる。規模が小さくなると、例えば団体競技ができないのであれば他校を選びたいという生徒も出てくるなど、少人数で教育できる良さや併せて、弊害、課題も出てくるので、やはり一定規模を持たせることとし、そのため、どのようにして生徒を集めるかを校長先生からご提案をいただいている。
- 生徒減少は北桑田高校が例外ではないことを前提としつつ、広大な京北、美山地域の生徒のことを考えると、いかに生徒が減っても高校がなくなることは考えにくい。そこで検討すべきは2点あり、一つは生徒、保護者のニーズや期待にどれだけ応える教育の魅力を提供できるか、もう一つは、将来の地域を担う人材を

どう育てていくのか、である。校長先生の提案は、保護者のニーズに限りなく応えていこうとする積極的な内容が含まれ、高く評価できる。外から生徒を集めることは生徒たちの学びをより豊かにしていく上で大変重要である。ただ、地域を担う人材を育むためには、普通科のキャリアデザインや森林リサーチ科の森林活用において、地域と協働して教育の内容や仕組みを作ることが必要になる。京北、美山両地域の熱い思いが、高校と常に一体であることが、これからも北桑田高校が地域の大切な後期中等教育の教育機関として歴史を重ねていくための重要な要素だと思う。高校の元気が地域の元気に、地域の元気が高等学校の元気につながる双方向の活性化を考えたとき、学校と地域がともに歩む仕組み、一緒に北桑田高校を考え続ける場として地教行法に基づく学校運営協議会の設置を検討してはどうか。平成29年度4月1日現在で全国に3,600もの学校運営協議会設置校がある。その多くが小、中学校だが県立高校で65校、特別支援学校は21校設置されている。昨年、山口県の高校での実践事例を聞いたが、高校生が地域に出向いて様々な地域の取組に教育活動の一環として取り組み、その成果を地域に向かって発信するなど、学校運営協議会の取組が学校と地域を元気にすると感じた。こうした検討会議のような場が継続的に北桑田高校を支援し続け、地域の主体者を育てていく関係作りが必要だと考える。

- 京都市においても学校運営協議会を活用し教育を充実させてきており、小学校・支援学校は全校設置となっている。府内で高校はまだ未設置であるが、本日の会議で、地元地域の方々のご意見を聞く中で、まさに学校運営協議会のようなと感じた。前向きにご検討いただきたい。6月開催の京都市・乙訓地域の高校合同説明会で、北桑田高校のブースで熱心に話を聞かれている保護者も多数おられた。北桑田高校の魅力をまだまだ十分に市立中学校に発信できていないと思った。今回の前期選抜募集の変更については、提案が府教委の考えと一致しているということであれば、前向きに検討を進めたい。

今、京都市では洛陽工業高校と伏見工業高校とが統合再編して京都工学院高校の方に移り、洛陽工業高校の跡地に塔南高校が移転して新しい高校を作る計画を進めているところである。その際に、地域の思いを受けながら学校運営協議会を設置しようとしており、さらには、塔南高校OBはじめ、地域や企業・大学など外部の方々にも協力いただく「教育支援組織」のようなものを作ろうと考えている。北桑田高校でも応援いただく母体を学校運営協議会と重ねるような形態で作っていただけたら良いと思う。また、小中一貫校と高校との緊密な連携をもっと進めるべきだと思っている。校長先生の提案にあった、地域資源や自然を活用した活動や、小中高連携した英語活動も積極的に取り入れていただければと思う。

また、北桑田高校において企業の姿があまり見えないと常々思っている。森林リサーチ科には素晴らしい設備があるが、基本的には教員が教えることが多いと聞いている。もっと地元企業と連携して、見える形で学校教育に参画いただけるシステムがあれば良いと思う。予備校のサテライト校についても素晴らしい提案だと思うので、予算的な支援を府教委、後援会にも協力いただいて生徒募集段階で打ち出すことができれば、中学生にもアピールしやすいのではないかと。

- 資料P2の中学校の状況によると、周山中が卒業生37名、美山中が25名、併せて62名である。高校の定員90名とで比較すると当然差が出てくるため、他地域から来ていただくことを考えねばならない。我々としては移住、定住を一層進めなければならぬし、90名が現実の地元中学校の生徒数を見てどうなのかは意識しなければならないと思う。P3の進路状況では、例えば28年度74名の卒業生の進路として、約8割が進学というのが北桑田高校の特徴ということになる。地域の産業の担い手を育成するという立場であるなら、就業というか卒業後の進路に対する支援、あるいは技術をつけるための支援として地元企業等へのアプローチな

どの取組も必要になると思う。

活性化構想案は大変素晴らしいが、資格取得や就職支援など卒業時のスキルアップとしての支援と、勉強、部活動や生活面、通学面など在学中の生徒に対する支援とで、分類して具体的にすべきことを整理するとよりわかりやすいのではないか。その中で、学校、行政がすべきこと、得意なことと、地元地域の方々をお願いしたいことと分かれていくと思う。

- 平成28年度美山中の卒業生は25名である。一方で美山地域の直近の出生数は28年度は少数であったが、平成24年から27年にかけては平均で20名前後で推移している。やはり、子どもたちの進路保障は必要だし、地域への定住促進を進める上で地域から高校がなくなるというのは致命的なことだと思う。やはり、小規模でもよいので高校を存続していくことが皆さんの総意だと思う。

南丹市では、今年度バスのダイヤを大幅に見直すこととしているが、この北桑田高校の在り方検討会議における議論の中で、バスの利便性向上を求める声が非常に多いということを担当部署に伝えており、よければ北桑田高校にもバスのダイヤについて聞き取りをしていきたいと思っている。

- ◆ バスのダイヤ改正については、学校との連携についてぜひお願いしたい。

- 3年ほど前から京都市に北桑田高校の存続やJRバス延伸の話をさせていただいており、市長からも京都市として応援するという話を聞いている。

- 大変素晴らしい活性化構想案だと思う。私には中学校3年生の子どもがおり、どの高校に進学したいかと話をしている。専門性のある学校に行きたいという思いがあり、絵の専門的な学校に行きたいが、なかなか選択肢がないのが現状である。北桑田高校には森林リサーチ科があり、専門的な学びを求める生徒たちが選んで発展していけるところが良いと思う。また、部活動でも森林や川などの自然環境を活かした取組が今後発展すると思う。その他、例えば制服がかわいい、格好いいとか、それだけでもモチベーションを上げて来てくれる生徒もいると思うので、そうした取組もお願いしたい。

- 生徒が減少するという事は、当然PTA会員も減っていくということで、運営も大変苦しいところであるが、今年度PTAとしては明るく楽しく積極的に活動していこうと一致団結している。特に、今年度は小中高連携ということで、7月に第1回の会議を持ち、先ほどの校長先生の提案をそこでも示していただいて、保護者に北桑田高校の改革についてしっかり理解していただこうと考えている。PTAとしても、PTA同士のつながりの中でしっかり活動していきたい。

9月に文化祭が開催されるが、昨年度から地域に開放された文化祭で、幅広く来ていただけるよう取り組んでいるが、今年度はPTAの予算を広報にも回し、約4,000枚のチラシを作成した。これを美山、京北の小中PTAと併せて、京都市の近隣の中学校PTAにも配布する計画としている。なんとか北桑田高校に来てほしい、特に保護者にあの素晴らしい学校を見ていただきたいという一心で配らせていただく。役員で頑張って焼きそばを作ってお待ちしている。

なぜ北桑田高校がこの場所にできたのか、ということも改めて勉強させていただき、北桑田高校という名前を広め伝えていきたい。なぜ北桑田という名前なのかと尋ねる保護者もおられ、名前が消えそうになっているのではと心配もしている。長期的な対応は地域のみなさん等で色々と考えていただいているし、短期的にはPTAとしても幅広く広報、アピールしていきたい。

- 保護者としては、通学の問題が大きいということがある。これまでの話から京北地域での取組が非常に積極的だなという印象を受けた。京北ふるさとバスで取り組まれているように、美山地域についての定期代や通学時間帯のバスの増便で通学しやすい体制をとっていただけたらと思う。また、北桑田高校に進学して、次のステップを目指す生徒も多くいるので、高校の指導を一層充実していただき、質の高い教育が受けられるようお願いしたい。  
また、通学や寮のことは想定するところではあったが、本日、校長先生からの活性化構想案で具体的にコースや学科の再編ということも示していただいたので、かなりイメージが持てたと思う。
- 7月に開催される自転車イベントのポスターを前に、イベントに出場する児童と北桑田高校へ進んで自転車競技をするという話をしていた時のことだが、その隣にいた児童が自分は園部高校に行くと言った。それはどうしてかと尋ねると、「学校の先生になりたいから」との答えであったので、北桑田高校に行っても学校の先生になれるし、頑張っている人はいっぱいいることを話したところである。まだまだ高校のことを知らない部分があるのだなと感じた。そんな折に北桑田高校ではこの夏休みに児童に勉強を教えてもらう企画をしていただくなど積極的な情報発信に努めていただいている。それらを子どもたちに広めていくことが大事だと思っている。その他、提案の中で特色のある部活動としてボルダリングなどを挙げておられ、地域の人にも利用できるとのことで、地域と結びつく、地域に開いていくということも大変良いことだと思った。